

# いこいの村 酒井キヌ

題字 とくらの家

2013年（平成25年）11月20日発行

## 第378号

発行責任者 いこいの村聴覚言語障害センター  
所長 柴田 浩志  
編集 いこいの村編集委員会  
〒629-1242  
綾部市十倉名畑町久瀬谷2番地  
TEL (0773) 46-0101  
FAX (0773) 46-0610  
<http://www.kyoto-chogen.or.jp/ikoi>



10月21日（月）に綾部で60年ぶりに開かれた大相撲の地方巡業を観戦しました。利用者の皆さんはこの日をとても楽しみにしていました。白熱する取り組みに手を叩き、土俵入りのポーズをとったりと、とても楽しまれました。



普段はテレビの相撲中継でしか見られない力士たち。「今この力士が出てくるよー!」「そこそつ。横綱だよー!」番付表を見ながら会話が弾みます。中には初めて生で観戦する方もおられ、とても感動されていた姿が印象的でした。おいしいお弁当や記念品の座布団のお土産、幕内力士と記念撮影など、思い出に残る一日となりました。

（梅の木寮 従来型）

堀田 博昭

# 福祉を知り 学び考え そして未来へ

10月11日、東綾小学校5年生15人の児童が体験学習にやってきました。東綾小学校では、今年度「次世代の担い手育成事業」に取り組みられています。

## 次世代担い手育成事業とは

①福祉施設で働く人への取材や職場体験を通じて、高齢者や障がい者、またその支援者について理解を深め、身近な高齢者や障がい者への思いやりの気持ちを育てること②自分たちの住む地域がどんな人でも住みやすい街になるために、何ができるかを考える。そして、働くことを通じ、人を

助ける喜びややりがいについて知る(要約)を目標にあげ取り組まれている事業です。いこいの村は、事業の中の

体験学習の受入施設として協力しました。

子どもたちは、体験学習の前に、福祉について学びました。そして、受入施設の職員を招き、施設の状況、どのような仕事をしているか、仕事についての理由、大変なことややりがいなどさまざまな話を聞きました。その上で、10月3日には、受入施設を訪問し、職員から施設の説明を受けたり、職員に取材をして理解を深めました。

### 体験学習

そして、迎えた10月11日、デイサービス、梅の木寮ユニット型花の家(以下、花の家)、栗の木寮で、5名ずつ体験学習生を受け入れました。

デイサービスセンターや花の家では、湯のみ拭き、お茶出し、洗濯物たたみ、昼食の準備、配膳、食事の後片付け、食器洗いなどの仕事を体験しました。午後は、レクリエーションの司会進行を体験しました。



おしゃべりしながら…。洗濯物たたみも立派な仕事です

栗の木寮では、仲間(利用者)の指導を受けてピーマンの選別・計量・袋詰めをしました。また、スーパーへの出荷などの農作業体験をしました。

事に取り組んでいました。視線を合わせて話をしたり、手に触れたり、字を書いたりなど、さまざまな工夫をしてコミュニケーションをとる姿が印象的でした。

### 手をとってコミュニケーション



### 体験学習を通じて

子どもたちからは、「利用者さんが笑顔で喜んでくれてうれしかった」「伝わるようにコミュニケーションを取るのが難しかった」「職員さんはただ仕事をするだけではなく、利用者さんを楽しませている。でも、それはかなり難しい仕

事だと思った」等、人との関わりについて学んだという感想が出ました。

福祉の仕事は、人との関わりがとても大切です。私たちは、人との関わりをしています。日々の関わりで築いた信頼関係の上に、介護が成り立つと考えています。子どもたちは、いこいの村での体験学習を通して、信頼関係や人との支え合いを学んだのではないのでしょうか。今後、子どもたちは、バリアフリーな社会を創るために、自分たちに何ができるかを考え、まとめ、発表会を行います。

子どもたちが、今回の体験学習と、これからの取り組みを貴重な経験として、バリアフリーな社会を創る担い手として成長してくれることを期待しています。

(いこいの村・梅の木寮 ユニット型 佐藤 香)



# 利用者生の声

当たり前前の場所を目指して  
舞鶴市聴覚障害児放課後等  
デイサービス

昨年の4月から始まった舞鶴市聴覚障害児放課後等デイサービス(以下「きんぐら」)は2年目を迎えました。子どもたちは「きんぐらは楽しいー!」「明日は何するの?」と言います。また、学校生活や家庭での悩みを打ち明けてくれる子どももいます。保護者とは家庭での様子、要望等を聞く場として保護者懇談会を開催しています。

懇談会では、  
「いろんな体験ができ、いろんな人と接する機会ができてありがたい」  
「すい〜楽しそう。きんぐらは子どもたちの心のゆりかごです」

など、ありがたい言葉をいただきます。しかし、

「職員と子どもたちが友達のように見える。節度が必要」  
「場所が狭く、安全面が心配。避難訓練をしてほしい」  
とこの意見もありました。

保護者の声を受けて、今年の夏休みから「きんぐらの約束」を作りました。

- ・「きんぐら」にゲームを持って来ない。
- ・名前を呼び捨てにしない。
- ・使った物は元の場所に片付ける。

約束の内容を書いた書面を配布して、口頭で説明をしました。その後、子どもたちは自主的に片付けをしたり、言葉遣いがいいいになるなど、約束を守って参加できるようになりました。

子どもたちや保護者の声を取り入れ、よりよい内容に変わってきています。事業運営は当法人ですが、中身を作っ

ていくのはそついった声や要望です。

「きんぐら」は始まったばかりの事業です。これから、それぞれの子ども「コミュニケーション」手段を尊重し、成長を見守り、日常生活の一部になるような当たり前前の場所「きんぐら」としてあり続けたいと思います。

(舞鶴市聴覚障害児放課後等デイサービス  
今西 和弘)



防災学習の様子。この後避難訓練を行いました。



いこいの村・梅の木寮  
施設長  
奥本 初実

本年3月から始まった梅の木寮従来型の改修工事もうすく終わります。シートや足場が外されて、利用者が相談して決められた落ち着いた黄土色の外壁が姿を見せています。12月初旬には、引っ越しをして新しい生活が始まります。

改修後は、「従来型」のケアに代わり、「ユニットケア」を行う予定です。ユニットでは、利用者10人程度をひとつの生活の単位(ユニット)として介護を行います。職員もユニットごとに固定して、なじみの関係のなかで生活支援を行います。ユニットケアは、今までの生活スタイルをできるだけ尊重して、より個々に応じた支援ができるようにするシステムです。調理もユニット内でおこなうべく準備中です。

2004年の増築によって

先に始まったユニット部分と合わせて、梅の木寮の全てがユニット型になります。

そして今、利用者みなさんにより各ユニットの名前を決める相談が始まっています。「桜」「いちじく」「ふき」「草」「川」・・・候補は22もあります。その多くが綾部東部地域の自然にちなんだ名前です。ユニットの名前を相談しながら「OOさんと一緒にユニットがいいな」などと新しい生活への希望も出われています。

改修中は、お住まいの利用者や外来の皆様には大変ご不便をおかけしました。新しくなった梅の木寮にぜひおこしくください。

### 入所者自治会

#### 年輪の会より

改修資金の一部にと、ペットボトルのキャップを集めています。これまでの多くの皆様のご協力に感謝いたします。本取り組みは、2014年3月末日までを予定しています。今しばらくのご協力をお願いいたします。

